

パネル・ディスカッション：ジェンダーレンズと社会的インパクト投資

2/20 10:40-11:40

Catalyst at Large 創設者 スーザン・ビーゲル氏

Investing in Women ジェームズ・ソーカムネス氏

KL Felicitas Foundation 共同創設者 リサ・クライスナー氏

モデレーター：笹川平和財団 ジェンダー・イノベーション部 グループ長 小木曾麻里



※左から小木曾麻里氏、スーザン・ビーゲル氏、ジェームズ・ソーカムネス氏、リサ・クライスナー氏

2月20日（火）の10:40より、「パネル・ディスカッション：ジェンダーレンズと社会的インパクト投資」が開催された。モデレーターは、笹川平和財団 ジェンダー・イノベーション部 グループ長 小木曾麻里氏。パネリストは、Catalyst at Large 創設者 スーザン・ビーゲル氏、Investing in Women ジェームズ・ソーカムネス氏、KL Felicitas Foundation 共同創設者 リサ・クライスナー氏で行われた。

ジェンダー平等の視点を持ちながら事象を見つめる「ジェンダーレンズ」というテーマに合わせて、まずは、Catalyst at Large 創設者 スーザン・ビーゲル氏の「ジェンダーを理解することは、様々なリスクを特定することでもあります」という指摘から議論が始まった。

Investing in Women のジェームズ・ソーカムネス氏は、オーストラリア政府が推進している女性起業家への投資促進に携わる立場から、女性への投資は女性のエンパワーメントにつながることや女性起業家は男性よりもインパクトを求める傾向があることも語った。また、世界的に、女性に投資しようという流れが出てきていることにも言及された。

KL Felicitas Foundation 共同創設者 リサ・クライスナー氏は、マインドセットやスキル、ビジョンなどを含めた「ジェンダーレンズ」を持った資金提供者が必要だと述べ、有能な女性たちが活躍できていない現状をみてきた経験を踏まえて、女性にとって意味のある投資の必要性を語った。

最後に、モデレーターの小木曾氏からアジア女性インパクトファンドの取り組みについて触れながら、女性に投資をし、色々な方々とつながっていきながら、ジェンダーを考慮した投資を主流化していきたいという抱負で、パネル・ディスカッションは締めくくられた。

以上